

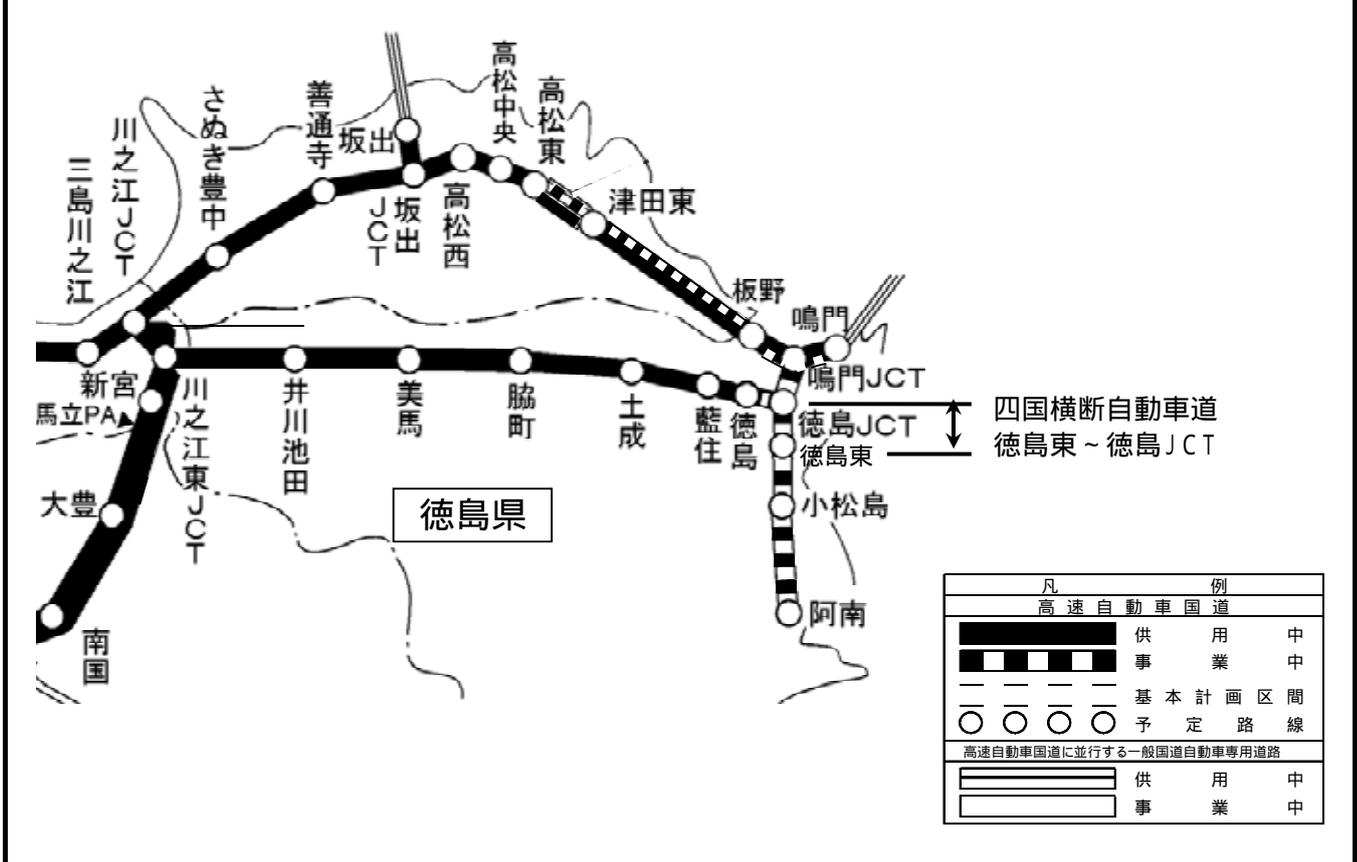
再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局 高速道路課

担当課長名：縄田 正

事業名	しこくおうだんじどうしゃどう 四国横断自動車道 とくしまひがし とくしま 徳島東～徳島JCT		事業区分	高速自動車国道	事業主体	西日本高速道路(株)
起終点	自) 徳島県徳島市北沖洲 至) 徳島県徳島市川内町富久		延長	4 km		
事業概要						
四国横断自動車道は、四国縦貫自動車道とともに「四国8の字ネットワーク」の一部を形成し、観光及び物流など地域の活性化に資する重要な路線である。						
H10年度事業化		H6年度都市計画決定		H一年度用地着手		H一年度工事着手
全体事業費	594億円		事業進捗率	1%	供用済延長	-km
計画交通量	約7,800台/日					
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年		
	(事業全体) 1.7	(残事業)/(事業全体) 492/500億円	(残事業)/(事業全体) 856/856億円	平成23年		
	(残事業) 1.7	事業費：475/483億円 維持管理費：17/17億円	走行時間短縮便益：793/793億円 走行経費減少便益：40/40億円 交通事故減少便益：23/23億円			
感度分析の結果						
残事業について感度分析を実施						
交通量変動	B/C=1.9 (交通量+10%)		B/C=1.6 (交通量-10%)			
事業費変動	B/C=1.9 (事業費-10%)		B/C=1.6 (事業費+10%)			
事業期間変動	B/C=1.8 (事業期間-1年)		B/C=1.7 (事業期間+1年)			
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保(並行区間等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される) 物流効率化の支援(農林水産業を主体とする地域から大都市圏への農林水産品の流通の利便性が向上が見込まれる) 災害への備え(緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する) 						
他7項目に該当						
関係する地方公共団体等の意見						
[徳島県]						
「四国横断自動車道 阿南四万十線(徳島東IC～徳島JCT)及び(徳島IC～徳島JCT～鳴門JCT)」の事業を継続するという「対応方針(原案)案」については、異議ありません。「四国横断自動車道 阿南四万十線」は、「四国縦貫自動車道」や徳島東南地域のミッシングリンクを解消する地域高規格道路「阿南安芸自動車道」とともに、「四国8の字ネットワーク」を形成し、観光及び物流など地域の活性化に資する「四国の骨格軸」であります。また、近い将来発生が懸念されている「東海・東南海・南海」三連動地震をはじめとする災害時の緊急輸送路や救急救命のための「命の道」として、なくてはならない道路であります。このため、以下の事項にご配慮の上、一日も早い供用が図られるよう、事業継続並びに早期着工をお願いします。						
<ul style="list-style-type: none"> 松茂PAにおけるスマートICの本線同時供用 高速道路施設用地の津波避難場所としての一部利用促進 IC、PAの防災拠点化 						
事業評価監視委員会の意見						
「事業継続」とする対応方針(原案)については、了承された。						
<委員からの主な意見>						
・B/Cには現れない防災の観点からも非常に重要な道路である。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
平成15年3月に高松道全線が供用した。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
現在までに一部区間で土質調査及び設計を実施し、今後は調査設計を更に進め地元設計協議を開始する予定である。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
今後、行政協議等を経て地元設計協議を開始する予定である。						
施設の構造や工法の変更等						
地元設計協議など事業進捗に合せ設計並びに施工計画等の精度を上げていくとともに、新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら、今後ともコスト縮減を図っていく。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上、事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。					

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。